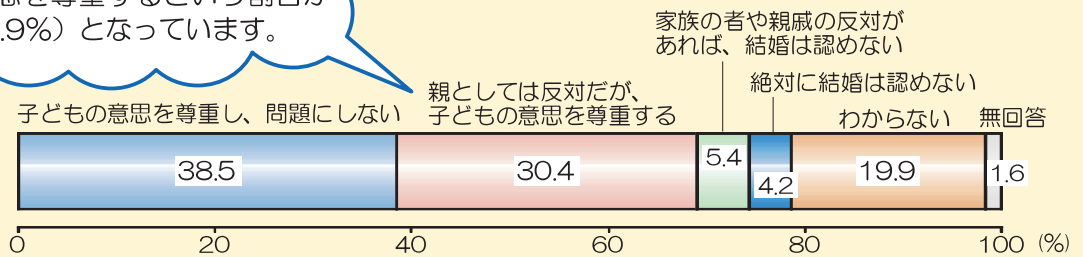


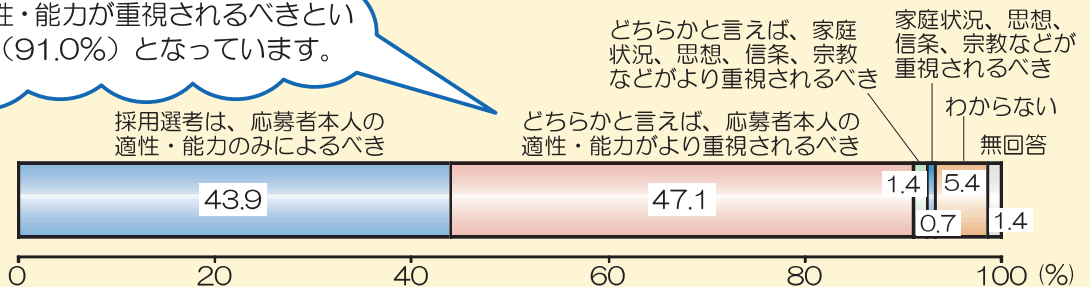
## Q9 同和地区出身者との結婚についてどのように思われますか？

子どもの意思を尊重するという割合が7割弱（68.9%）となっています。

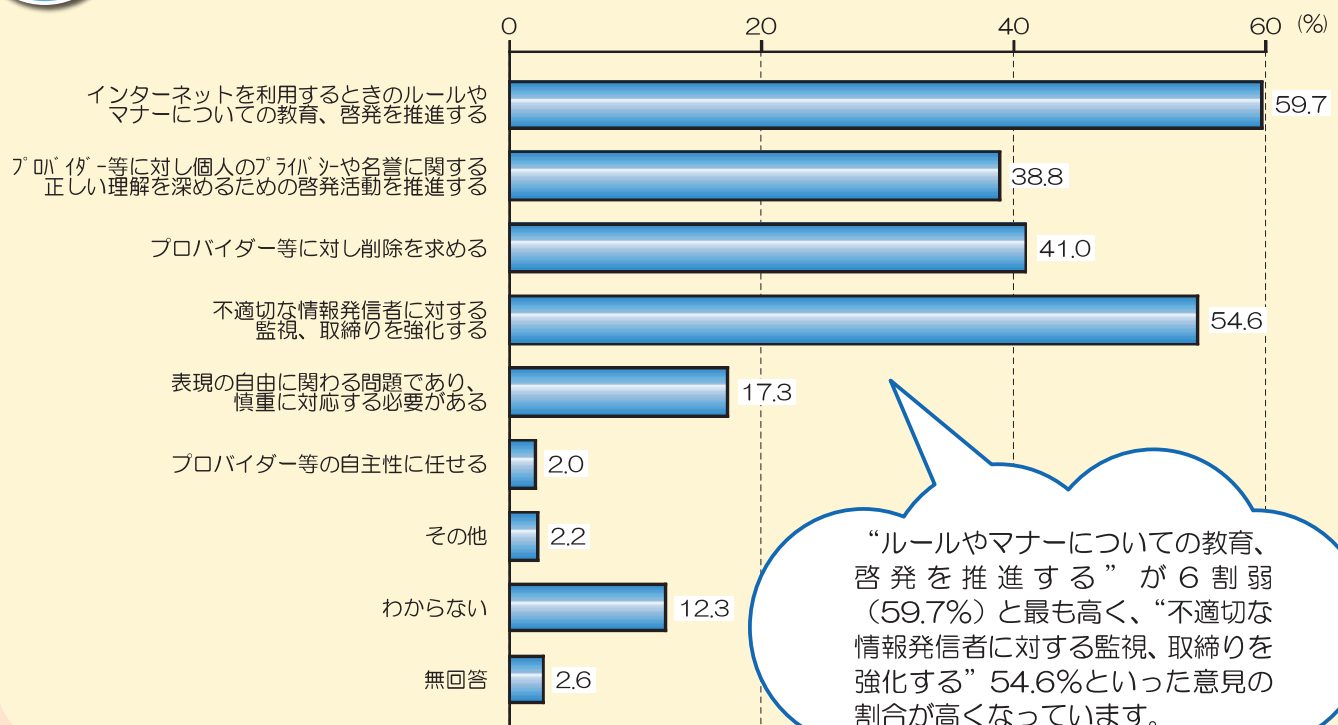


## Q10 家庭状況等を採用選考の判断材料とすることについてどのように思われますか？

応募者本人の適性・能力が重視されるべきという割合が9割強（91.0%）となっています。



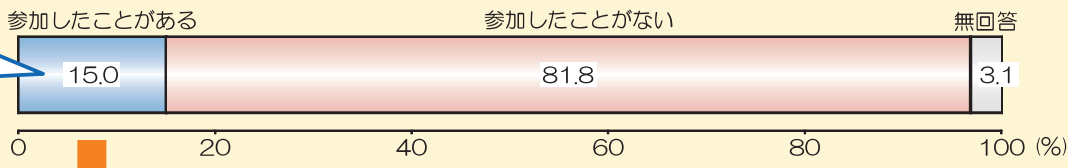
## Q11 インターネットによる人権侵害を改善するためには、どのようにすればよいと思われますか？ <複数回答>



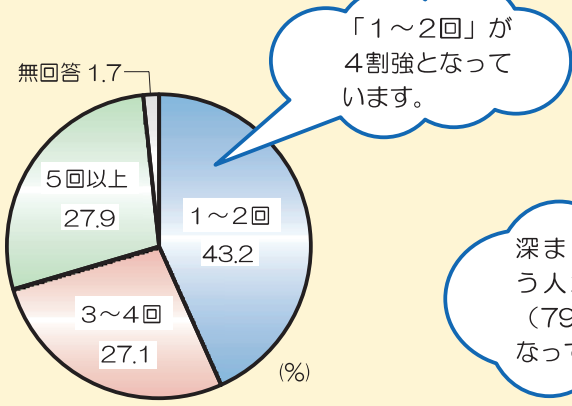
“ルールやマナーについての教育、啓発を推進する”が6割弱（59.7%）と最も高く、“不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する”54.6%といった意見の割合が高くなっています。

# Q12 (1) 過去5年間に人権啓発に関する研修会やイベント等に 参加されたことがありますか？

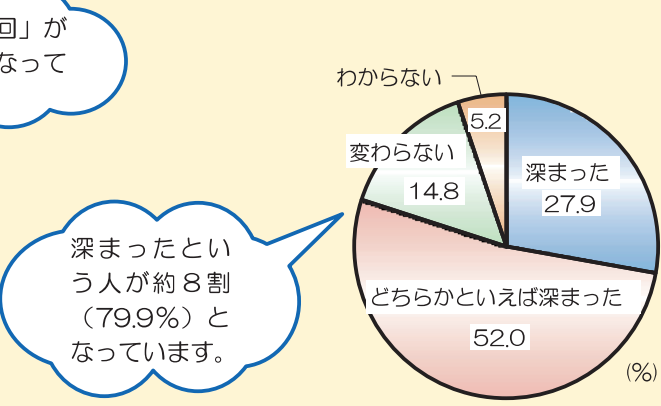
参加したことがある人は、全体の1割台(15.0%)となっています。



## (2) これまでに参加された回数は何回ですか。

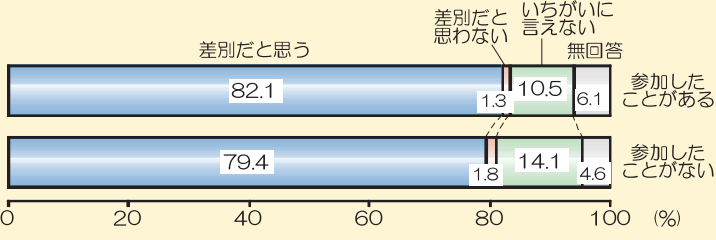


## (3) 研修会等に参加して、人権問題に対する理解、認識は深まりましたか。

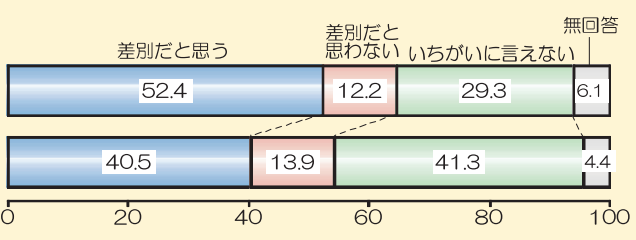


### 【人権研修等の参加経験別 差別に対する考え方】

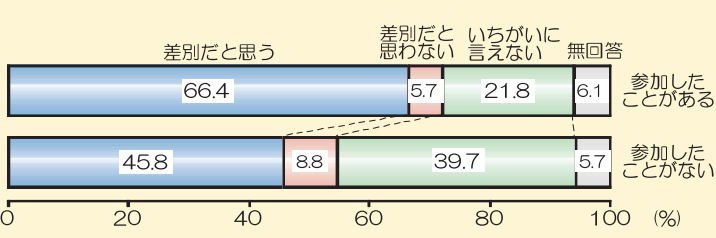
<就職活動で母子家庭であることを理由に不採用とされた>



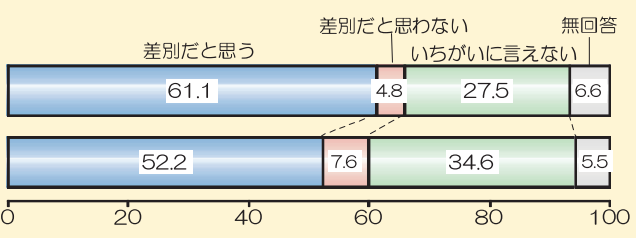
<夫が「男は仕事・女は家庭」と言い妻が働くことに反対した>



<通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた>

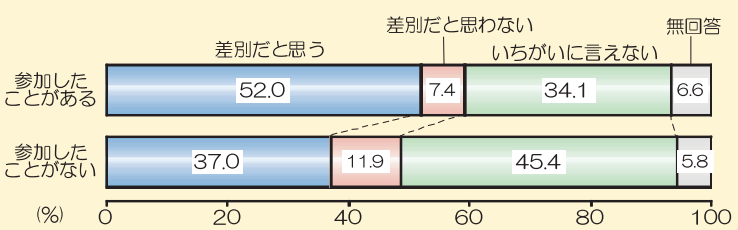


<外国人を理由に賃貸マンションへの入居を断られた>



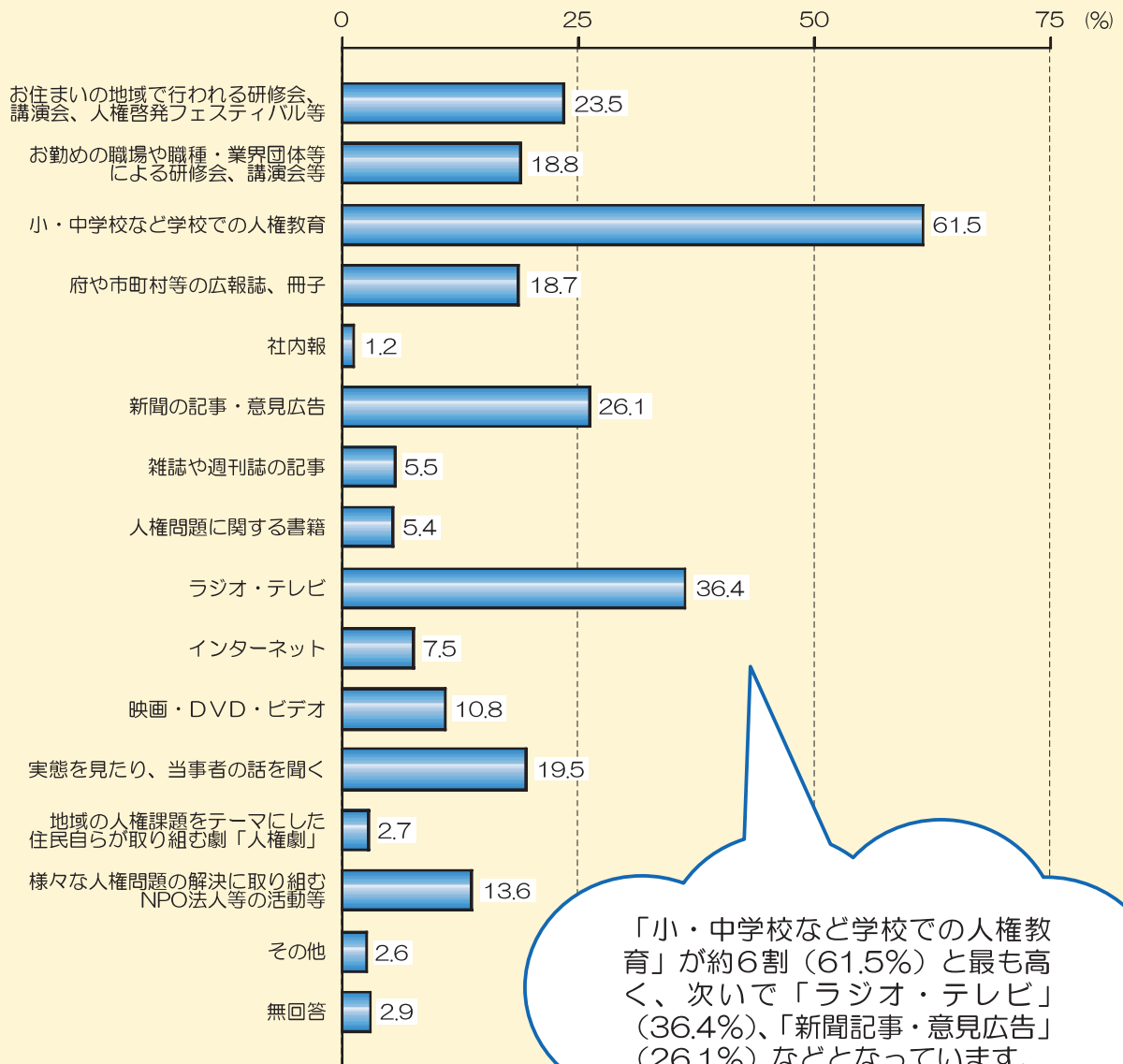
いずれの項目も、研修会等に参加したことがある人のほうが「差別だと思う」という割合が高くなっています。

<自宅近くに精神科病院が建設されると聞き反対した>

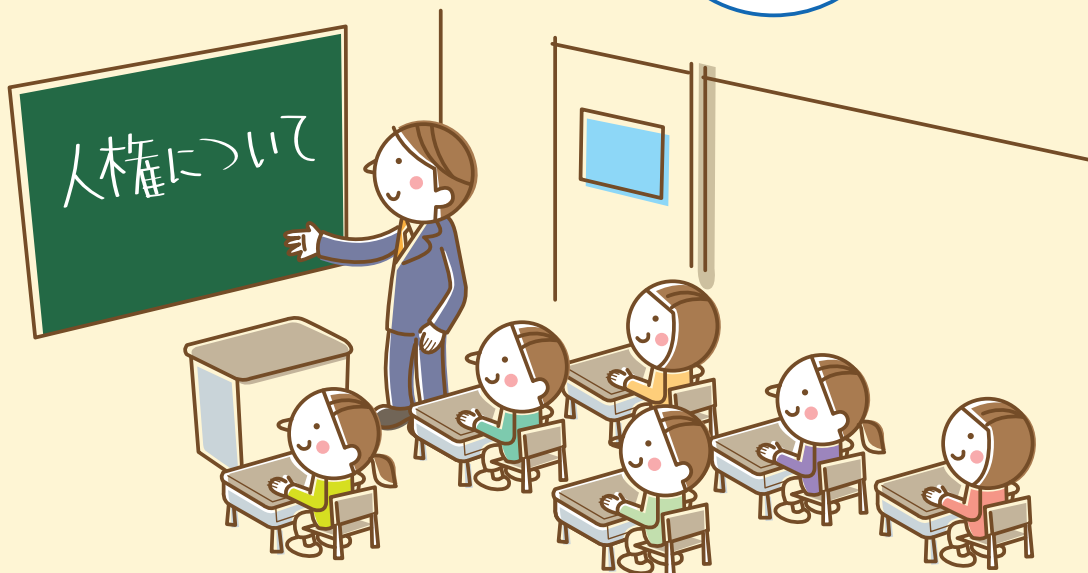


# Q13

人権問題について理解や認識を深めるためには、  
 どのようなものが役立つと思われますか？ <複数回答>

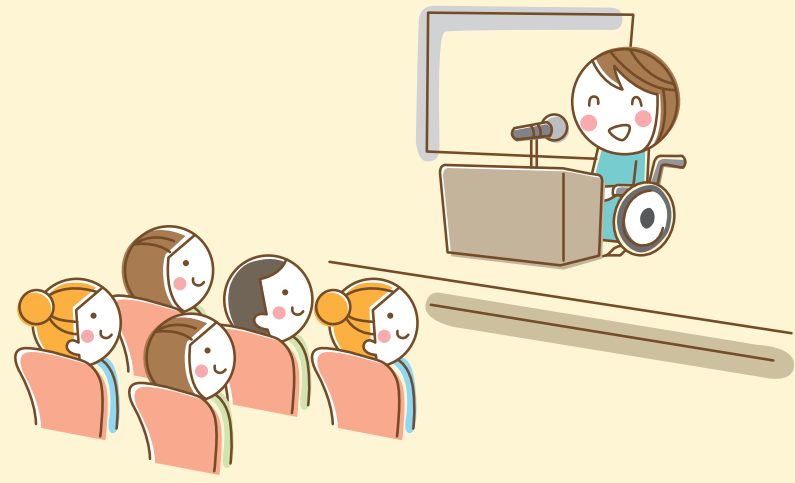
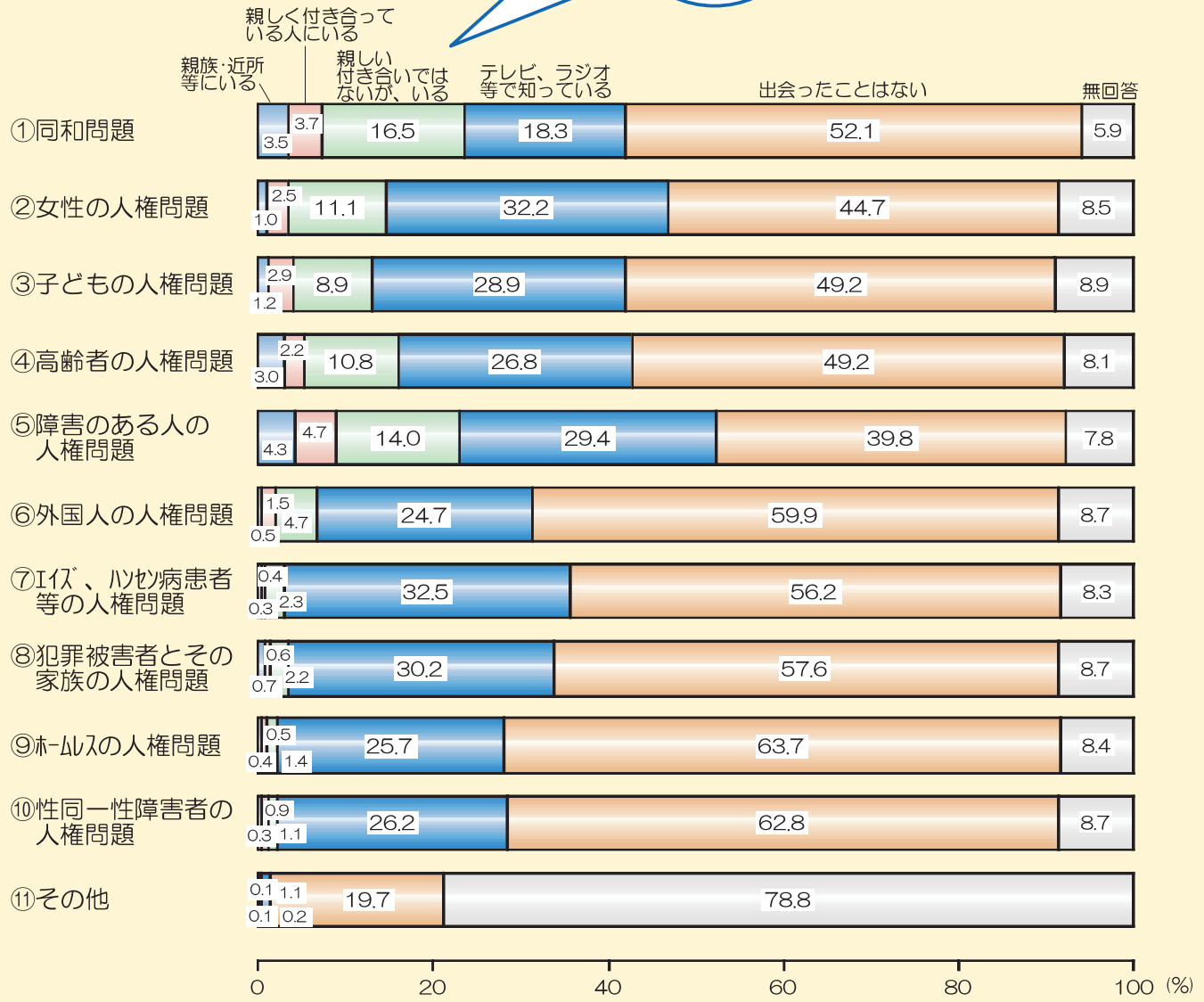


「小・中学校など学校での人権教育」が約6割（61.5%）と最も高く、次いで「ラジオ・テレビ」（36.4%）、「新聞記事・意見広告」（26.1%）などとなっています。



# Q14 人権問題の解決に取り組んでいる人に出会ったことがありますか？

“同和問題”または“障害のある人の人権問題”の解決に取り組んでいる人に出会ったことがあるという割合が2割台みられます。

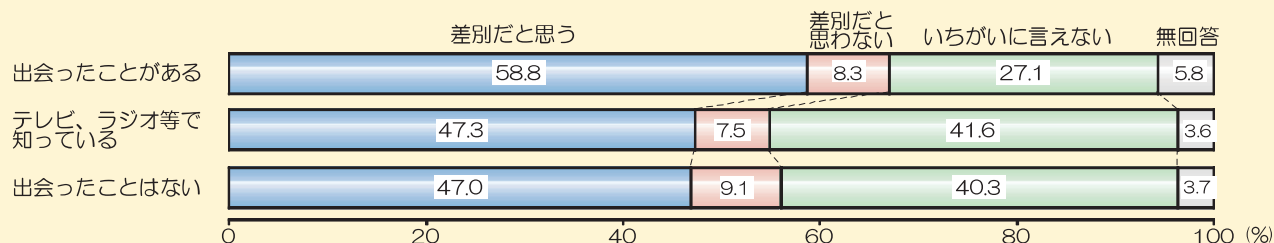


## 【人権問題の解決に取り組んでいる人との出会いの状況別 差別に対する考え方】

“出会ったことがある” = 「親族・近所等にいる」「親しく付き合っている人にいる」「親しい付き合いではないが、いる」の計

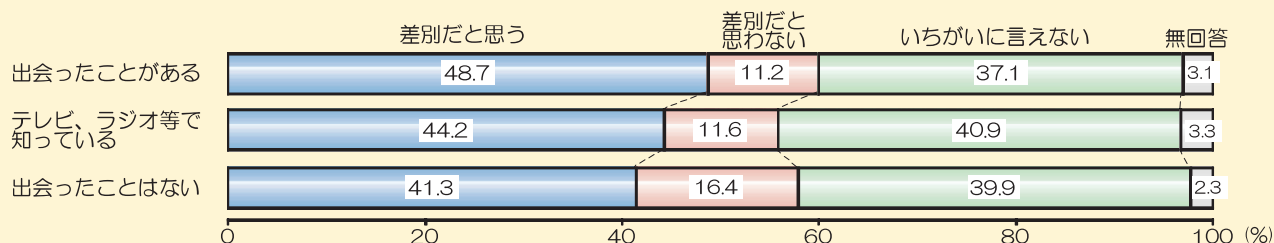
### ＜通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた＞

(『①同和問題』の解決に取り組んでいる人との出会いの状況別)



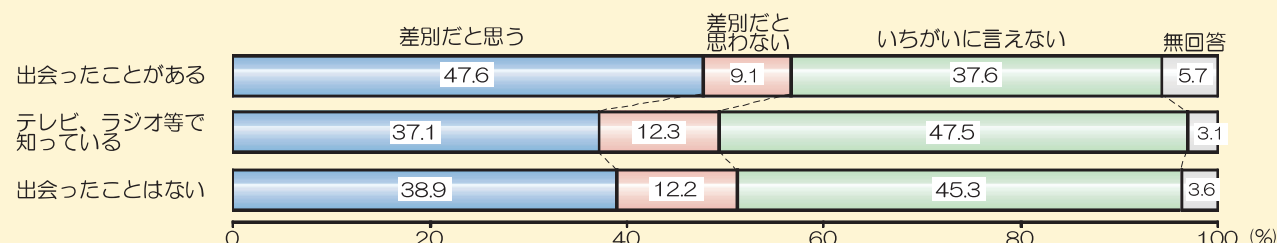
### ＜夫が「男は仕事・女は家庭」と言い妻が働くことに反対した＞

(『②女性の人権問題』の解決に取り組んでいる人との出会いの状況別)



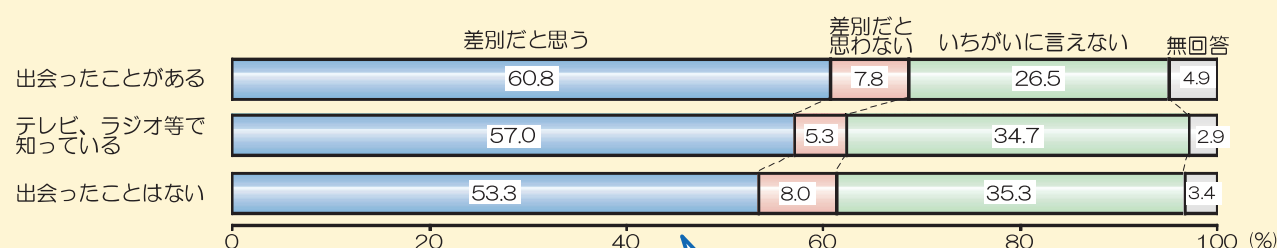
### ＜自宅近くに精神科病院が建設されると聞き反対した＞

(『⑤障害のある人の人権問題』の解決に取り組んでいる人との出会いの状況別)



### ＜外国人を理由に賃貸マンションへの入居を断られた＞

(『⑥外国人の人権問題』の解決に取り組んでいる人との出会いの状況別)



いずれの項目においても、関連する人権問題の解決に取り組んでいる人に出会ったことがあるという人で、「差別だと思う」という割合が最も高くなっています。